

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400070		
法人名	旭日産業株式会社		
事業所名	グループホームあさひ鳴海		
所在地	名古屋市緑区鳴海町字向田151番地		
自己評価作成日	平成26年3月21日	評価結果市町村受理日	平成26年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

”ユアライフ～あなたらしい生き方を～”の理念に基き、利用者さま主体として基本的な三大介助はもとより、残存能力の維持、生活質の向上に力をいれている。介護者主導にならない様に介護者は月に一度勉強会にて基本方針の確認をしている。ご本人はもとよりご家族様のご意見ご要望に可能な限りお応えするべくアンケートを実施するなど、風通しの良い運営を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が理念を理解し利用者を主体として暖かい生活施設を目指すと共に、残存機能の維持、生活の質の向上に力をいれている。職員同志のチームワークが良く、利用者の支援についても、毎日の支援記録・日常での変化や申し送りや速やかな検討・実施がされており、利用者個々のペースにあわせた支援をしている。職員は家族から要望や意見を聞くように日々努めており、家族からは、職員と話しやすく、柔軟に対応して貰えて安心との声もあり、関係も良好である。地域の人との関係継続のため地域行事(春・秋まつり・町内清掃)に参加したり、同法人の併設施設と共同で開催している、秋祭りの参加の呼びかけをして地域との交流に努めている。また、2か月毎に開催する運営推進会議を通じ、地域との連携のもと地域福祉拠点としての検討もされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である”ユアライフ”～あなたらしい人生を～を実践するべく勉強会を月に一度実施することで実践に活かしている。	入り口には理念「ユアライフ～あなたらしい人生を」を掲示してあり、カンファレンスや勉強会の時には合唱し共有している。何よりも利用者の話を聞いてその人らしい生活が出来るように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じ地域行事への参加又は施設の秋祭りに地域の方々を招待したりと相互に交流している。バザー品の寄贈や神輿、山車を披露して頂いたり良い関係を築けている。	町内会にも入っているため、地域行事(春・秋まつり・町内清掃など)への参加や施設の行事への招待など交流を図っている。また子供110番の認可もあり、AEDの設置もして地域の人でもすぐに利用できるようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護相談所」としての役割を担う為、常時、近隣地域の方々への相談案件を承っており、運営推進会議の構成員からも周知を図っている。H25年度から、新たに近隣地域を対象にした介護講座を開催し、地域の介護力増進に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に毎に開催し事業報告、情報交換、アドバイスを頂くことにより、サービスに反映させている。	小規模多機能と合同で開催している。地域行事情報や災害対策などの検討をしている。地域貢献事業の意見交換もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ地域のいきいき支援センター職員の参加を促し、情報交換を図っている。県や市からの緊急情報等をPCメールにて受け取っている。いきいき支援センターと協力して地域貢献事業として様々な講義を開講している。	運営推進会議を通じ、情報交換を図っている。区役所窓口へ直接出向き相談することもある。また、名古屋市主催の実践研修・リーダー研修へ積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度の勉強会の実施とマニュアル作成をすることで代表者及び職員が正しく理解するように努めている。	虐待と拘束防止のマニュアルについて年に1回勉強会を行い、現場のケアで、そのつど正しく理解するように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常会話や入浴等のケアの際に、虐待の兆候を観察し、情報の共有に努めている。虐待の可能性がある時には、御本人・家族との面談から問題を明確化し、介護負担の軽減や経済支援情報の提供、権利擁護制度の活用等にて対応していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者さまに権利擁護センターを御利用されている方がおられる為、存在や制度に関しては理解している。外部講習等で職員個々には必要性を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容を読み合わせ専門的な部分は、御理解頂ける様に解説することや、質問を受け付ける事で理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは、年に二回アンケートを実施し意見や要望をくみ取り運営に反映している。	玄関や入り口に意見箱を設置している。家族には年に2回アンケートを実施し、意見や要望を聞き取りその結果をサービス計画に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務運営に関しては部署会議、日々の業務内で意見や提案を聞き入れ実践に繋げている。	月に1回会議やケアカンファレンスがあり、職員同志が良いと思ったことはそのつど発言し、全職員で周知し実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の慰労会の開催や安価や宿泊施設の提供等の福利厚生を行っている。給与水準は依然低く職員のやりがいを維持する事が困難。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパー2級の取得推進を行っている。法人外での研修を受ける機会が少ない為、法人内での勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等において同業者との交流する機会を作りサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	より良い信頼関係を構築する為に、初期はもとより継続して安全確保につとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族には入居前段階で当方が出来る事、困難な事を御説明することで信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の要望に沿った対応をするべく優先順位を考慮して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントシートや介護記録を通じて、生活歴や自立度などの情報を共有し、各利用者の得意分野での作業を依頼したり、通年を通して、日常生活での知恵を頂いて支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との接点が、面会若しくは行事の時位しかないため半年に一度アンケートを実施することと、近況報告をする為の”あさひ便り”を配布することで情報交換に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員同行で自宅に郵便物を取りに行ったり新年には、御本人に年賀状を書いて頂いたり入居者様の知人がお亡くなりになった時香典を送るなどの支援している。	入居してから、近隣のスーパーに買い物に行ったり、散歩に出掛けたりして顔馴染みとなり、散歩の途中で人から声をかけられることもある。職員は馴染みの人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することなく複数のご利用者さまの間に入り仲介することで関わり合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在取り組めておらず。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での会話、態度、表情などご本人の意向を読み取り記録に残すことで職員間で共有出来る様務めている。	利用者の生活歴を参考に、日常生活の中で、表情や、会話、言葉から出てくる単語を拾ってその人の思いや意向を汲み取り、記録に残し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より聴取するとともに家族版センター方式の活用し、生活歴等を把握しケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を見逃す事の無いように支援経過記録、申し送り簿、連絡ノートにより職員間の情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様から聞き取った事を、その人のそのままの言葉で、その都度記録しモニタリングに反映している。その情報を元にご家族と話し合いをし介護計画を作成している。	介護計画は6か月ごとの見直しであるが、変化があれば都度見直しをしている。担当者制にしており、担当者会議を開き、結果を管理者にあげ、管理者とケアマネージャーが話し合い計画をたて、利用者家族には来所時に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録、申し送り簿、連絡ノートを通じて職員間での情報を共有することで即実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の、限りある生活時間をいかに有効に過ごして頂けるかを常に念頭において、サービスの提供を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の有効活用はされていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度提携医の往診あり。緊急時にも24時間迅速な対応をしていただいている。	かかりつけ医をそのまま受診することも可能だが、現在利用者全員提携医にかわっている。提携医とほかの専門医との連携もとれており、必要であればホームからの情報提供や受診つきそいもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が勤務し適切な処置、指示、看護を受けられる。医師への相談・受診等への対応し健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合の情報交換に努めている。普段からの病院関係者との関係作りが今後の課題です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り時には、他の利用者様にも伝え居室にお見舞いに行ったりお亡くなりになった場合も皆でお見送りなど施設全体で看取りを行っている。	重度化した場合の指針はあり、実際に看取りまで行った事例もある。医療行為はできないことを入居時にも重度化した場合にも家族に告げ、必要であれば他の施設を紹介することもあるが、希望があって可能であれば看取りまで行うように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置。対応マニュアルは作成しているものの定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施している。運営推進会議にて協力体制の告知をしている。	年に二度、併設している小規模多機能施設、有料老人ホームと合同で日中、夜間想定での避難訓練を実施している。緊急連絡網もあり、備蓄食料3日分の用意もある。水害時に近隣住民を受け入れることも検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は不在時でもノックするなど共有スペースでの声掛けは羞恥心軽減のため、柔軟な声掛けやさりげない対応を心掛けている。	利用者それぞれの居場所や状態の好みも考慮しつつ、尊敬の念をもった上で親しみのある声かけや敬称を使い、さりげなくトイレ誘導したり、居室へ連れて行くなど、職員は対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりから傾聴し本人の意思をくみ取りその都度記録に残し職員間で共有しケアや行事に反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調など今までの生活パターンを考慮し起床などを可能な限りその人らしい暮らしを支援する様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、身だしなみについては御自身で選んでいただくよう又季節に合った服装をしていただくことで季節を感じて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員、利用者様で献立を考えたり極力食事の準備は一緒に行えるよう支援している。	職員と利用者で献立を考え、残存能力に応じた手伝いをしてもらいながら食事を提供している。また、おやつ作りや喫茶、外食、行事食、誕生日のお楽しみ献立などでメリハリのある支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の様子食事水分量の摂取量の把握に努め利用者さまの好みに合わせたり脱水傾向、栄養不足時には医師との連携にて栄養補助剤の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアにを促し必要に応じ介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し排泄パターンを把握し必要に応じ声掛けを行っている。トイレでの排泄を基本とし立位困難な方も二人介助、リフト使用し居室内のポータブルトイレを使用する場合も	原則的に利用者本人の意思を尊重しつつ、チェック表を活用し失敗しないようさりげない誘導をしている。希望によって個室内でリフト使用でポータブルトイレ利用もあり、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力自然排便していただく為、腹部マッサージ適度な運動を推奨している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の都合により入浴日が決められているがその時の体調、希望には柔軟に対応出来る様支援している。脱衣所に音楽を流し楽しめる工夫をしている。	利用者それぞれに入浴日が設定されているが、入りたい人は毎日でも、入りたくなければその気になるまで待つこともある。脱衣所に祭りの音楽が流れ、入浴剤を使用するなど楽しめる工夫もしている。必要があればリフト浴もできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調、要望に合わせていつでも休めれる環境作りに努めている。眠前には落ち着いた眠れるようホットミルクの提供をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬帳を作成し用法用量は、開示し処方されるたび最新のを連絡帳に挟み観覧して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活や個別での活動、集団レクリエーションなどの場で趣味や職歴に応じた役割や活動を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物など花見や四季ごとのイベントを企画した年2回の日帰り旅行の行き先を考えたり利用者さまの要望には可能な限り応じるよう支援している。	ホーム前に流れる川の側の道などの散歩にでかけている。季節を感じられる花見であったり、年に二度の日帰り旅行といった特別な外出も組み入れながら、日頃から声かけを工夫しつつ、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側の立替払いが基本。ご本人のご要望があれば所持や買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙と一緒に確認したり不安な時に家族へ電話して不安の軽減の繋がるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンが全体にいきわたるよう羽を付けたり季節み合わせクローゼットの壁面を代えたり大きなカレンダー、トイレ、お風呂、自居室などわかりやすく表示している。	利用者と職員が共同で作る大きなカレンダーや、季節の貼り絵、行事の写真などで飾られたリビングは明るく、畳のコーナーもあり、利用者はほとんどの時間をそこで過ごし、くつろぎの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の関係に気を配り席の配置を検討したり畳のコーナーにこたつを設置しゆっくりと寛がれたり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具等を持ってきていただき、出来る範囲で環境を変えることなく快適に過ごして頂けるよう工夫をしている。	家具や布団など利用者はそれぞれ好みのもので使い慣れたものを持ち込み、写真などを飾って心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前、お風呂、トイレなどわかりやすいマークにしている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2391400070
事業所名	グループホームあさひ鳴海

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	町内会に加入している。地域行事（春・秋祭り・地域清掃など）の参加したり、施設行事への参加呼びかけ、無料チケットの配布、バザーへの品物の提供の協力など交流をしている。社会貢献事業として、認知症講座をおこない、地域の人との交流もしている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	推進会議委員には、町内会長、老人会、民生委員、家族、いきいき支援センターなどの参加があり、行事報告、質問、要望、助言などの報告、協議運営がされている。社会貢献事業についての意見交換や祭り時のみこしなどのルートの提案や協力がされている。	○
重点項目③		評価
	子供110番、認知症の講座などへの社会貢献事業への区役所との連携や相談協議がある。市町村の主催する、介護実践者研修の参加や認知症講座などの参画している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	年に2回家族にむけてアンケート調査を開催している。利用者や家族の苦情、要望などを施設として受け止め検討し、実践につなげている。家族向けのホームの便りでホームの状況、行事案内、報告などが定期的に発行されている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	○	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。